

白山の火山活動解説資料（平成 30 年 9 月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

27日に一時的に地震が増加しました。白山では、過去にも一時的な地震増加がみられており、今回の活動も、これらと同様の活動とみています。その他の観測データに変化はなく、噴火の兆候は認められません。噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

活動概況

・噴気など表面現象の状況（図2）

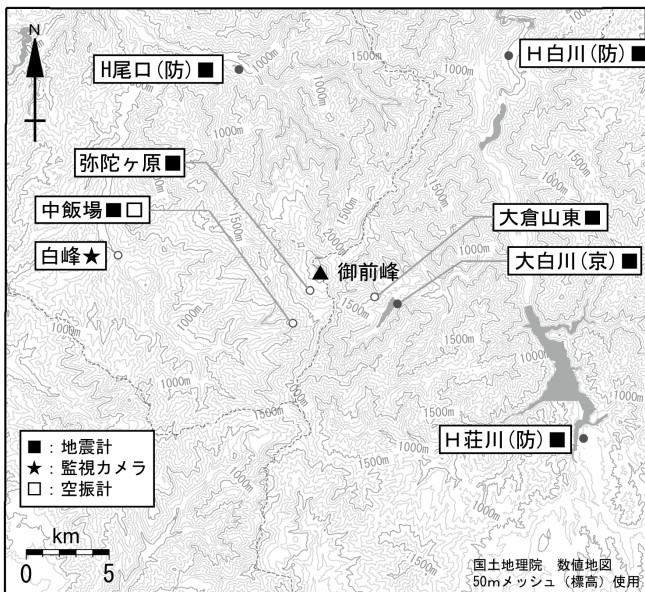
白峰監視カメラ（白山山頂の西約12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

・地震や微動の発生状況（図3～4）

27日10時～12時頃にかけて、白山の山頂（御前峰）付近の深さ4km付近を震源とする地震が一時的に増加しました。27日の日地震回数は71回で、最大のマグニチュード¹⁾は1.2でした。

今回の地震活動は、発生した地震の震源が深いこと、また低周波地震や火山性微動が観測されていないことから、火山活動は活発化しておらず、これまでも時折みられていた一時的な地震増加と同様の活動とみています。最近では2017年11月29日に一時的に地震が増加し、最大のマグニチュードは2.8で、日地震回数は370回でした。

1) この値は暫定値で、後日変更することがあります。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（防）：防災科学技術研究所、（京）：京都大学防災研究所

図1 白山 観測点配置図

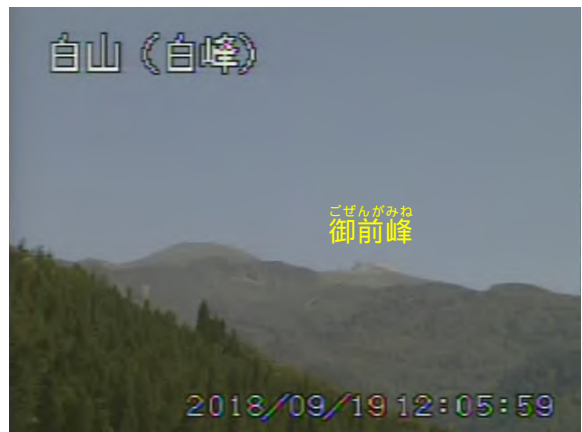


図2 白山 山頂部の状況
（9月19日 白峰監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成30年10月分）は平成30年11月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

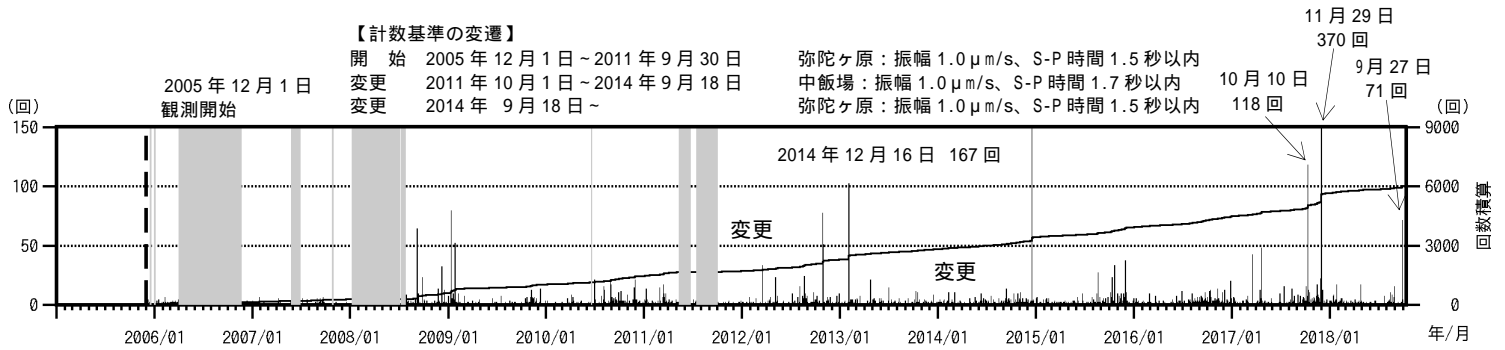


図3 白山 地震活動経過図及び地震回数積算(2005年12月1日～2018年9月30日)
図の灰色部分は機器障害による欠測期間

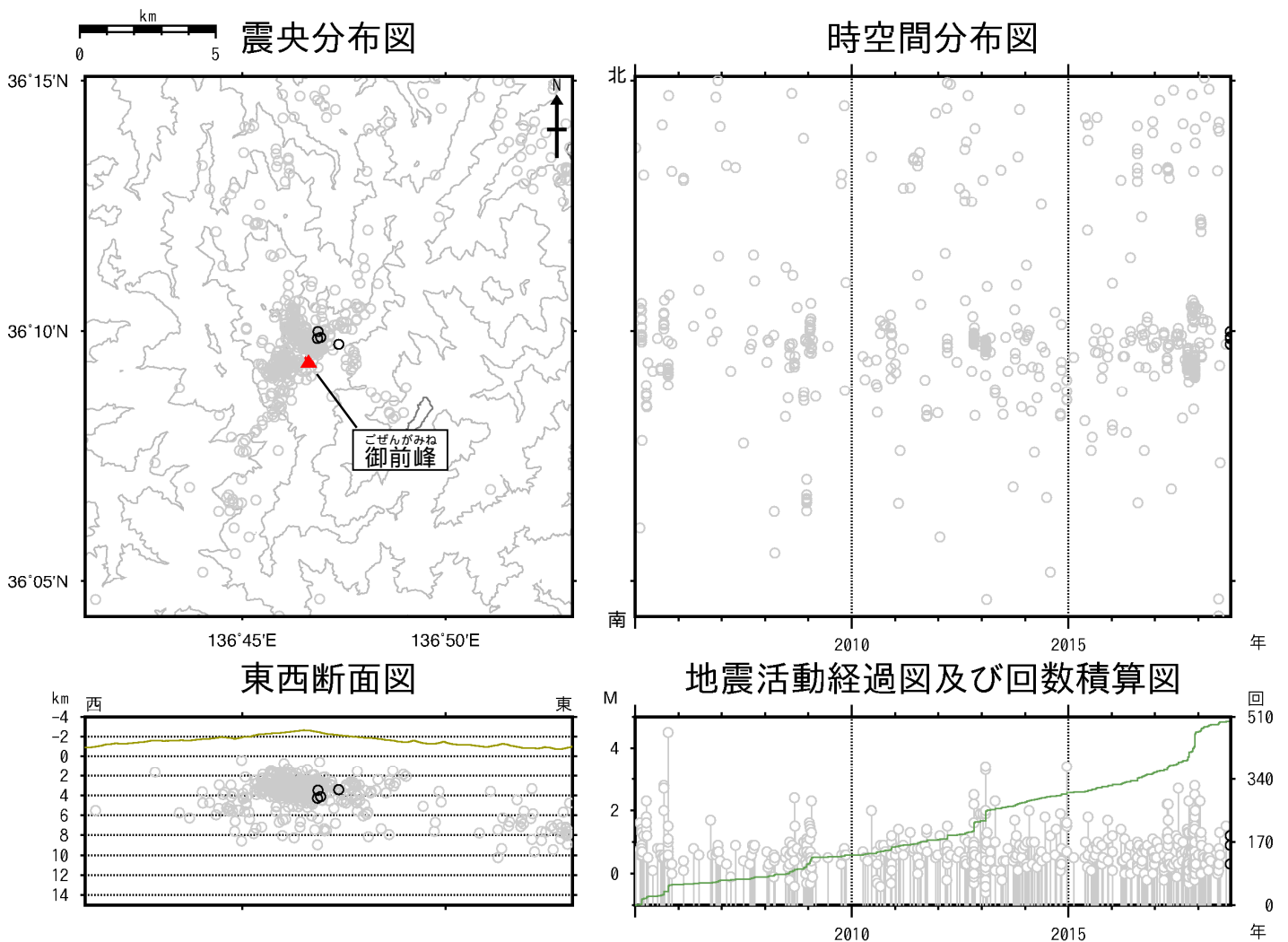


図4 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2005年1月1日～2018年9月30日)

: 2005年1月1日～2018年8月31日 : 2018年9月1日～9月30日
広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
M(マグニチュード)は地震の規模を表します。
図中の震源要素の一部は暫定値が含まれており、後日変更することがあります。